



鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.29
2021.7

編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/

■ご挨拶

越塩 俊介 理事・副学長（総務担当） 男女共同参画推進センター長



長らくコロナ禍で、1年延長された東京2020オリンピック・パラリンピックが始まりました。準備段階での差別的発言等から、社会や組織が個人へ与えてきた偏見等への影響を思わずにはいられません。日本が、男女共同参画社会や多様性・共生社会へと変わらなければならない必要性を強く感じます。

鹿児島大学は、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）事業の2年目に取り組んでいます。また、この4月から男女共同参画・広報担当として石窪奈穂美特命担当理事が就任されました。女性活躍やワークライフバランス等の一層の充実に繋げていくため、石窪理事には多様な視点からのご意見等をいただくこととしています。

今後とも本学の取り組みへのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■数字で見る鹿児島大学

鹿児島大学大学概要より（一部男女共同参画推進センター調べ*）

対象		役員	管理職*	研究者*
女性割合	女性割合 (%)	33.3	25.5	21.4
2021年5月1日値	前年度比較	+22.2	+7.3	+0.5
教員 (特任教員除く)	特任職員 (教員・専門職・研究員等) (常勤・非常勤)	教諭 (附属学校等)	常勤職員 (事務・技術・その他)	非常勤職員
20.0	49.2	28.4	61.4	67.9
+0.5	+2.5	+1.9	+0.5	+1.0
R3学部入学生	学部生	大学院生 (修士・博士前期課程)	大学院生 (博士・博士後期課程)	大学院生 (専門職大学院*)
42.3	38.8	25.3	26.8	52.2
-0.3	-1.3	+2.2	-2.2	-4.5

【9学部】

学部生女性割合

法文学部	54.0%
教育学部	54.6%
理学部	29.2%
工学部	15.9%
医学部	53.7%
歯学部	51.3%
農学部	50.0%
水産学部	29.5%
共同獣医学部	42.5%

【9研究科】

大学院生女性割合

人文社会科学部	61.2%
理工学研究科	12.7%
農林水産学研究科	41.5%
医歯学総合研究科	50.0%
保健学科研究科	54.0%
共同獣医学研究科	—
連合農学研究科	—
教育学研究科	53.8%
臨床心理学研究科	—

修士課程または
博士前期課程

61.2%
12.7%
41.5%
50.0%
54.0%
—
—
53.8%
—

博士課程または
博士後期課程

44.4%
11.5%
—
23.9%
31.8%
20.0%
37.1%
33.3%*
74.2%*

第5次男女共同参画基本計画では、「2030年代には誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す、そのための通過点として、2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%程度となるよう目指す」としています。

本学は、役員に占める女性割合が30%を超え、管理職に占める女性割合も増加傾向です。研究者採用は原則公募、女性限定かプラスファクター方式で実施し、研究者の女性割合を増加させることとしています。



鹿大の女性研究者に Close-up!



鹿児島大学附属図書館の貴重書庫にて

金井 静香 法文教育学域法文学系 教授

1997年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻 修了
博士(文学)
1997年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
1997年8月 鹿児島大学法文学部助教授
2007年4月 鹿児島大学法文学部准教授
2015年4月 現職

■現在の研究テーマについて教えてください

大学・大学院以来の研究テーマは中世の荘園についてですが、特に荘園領主である公家に関する研究をしてきました。一方で、本学教員として、鹿児島の歴史に関しては時代や対象をあまり限定せずに調査・研究してきました。その両方の研究を行ってきた結果として取り組むようになった研究テーマもあります。例えば、中世～近代における女性たちの働きに関する研究がそれにあたると思います。

■研究者を目指した理由や、

研究者としてのやりがいなどを教えてください

日本史の研究とは、史料に基づいて過去の日本の実態を解明していくものですが、史料を探したり、史料によって明らかになったことを文章化したりしていく作業は、私に向いているようです。

日本史は、私たちが生きている社会と直結している学問分野です。自分たちを取り巻く世界が辿ってきた歴史をふまえないと、次に自分たちが為すべきことや出来ることが見えてこない場合もあります。したがって、日本史はやりがいのある研究分野だと思っています。

■苦労話やその解決法などを教えてください

日本史の論文に掲載する数点の史料を見つけるためには、とにかく多数の古記録や古文書を調べる必要があります。まだ活字化されていない史料の中身を確認するために、遠方にある史料所蔵機関などに赴くこともあります。忙しい日々の中でそうした史料探しの時間を確保することは容易ではなく、そこが苦労するところです。インターネットなども活用して、できるだけ効率的に史料収集を行うよう努めています。

■日頃のモットーを教えてください

「目の前のことを一つずつ」です。やらなければならないことが多過ぎてとても対処できないと思うときは、とにかく優先順位の高いと思われるものから順次処理するようにしています。そうこうしているうちに、少し心の余裕が取り戻せるような気がします。

■これから研究者をめざそうとする方への

メッセージ

日本史の研究は、史料を保存してくれた人やそれを公開してくれた人、研究発表に対して意見を述べてくれた人など、様々な方々の支えや協力があって初めて出来るものです。これから研究者をめざす方々には、自分の研究課題を見つけてそれに取り組むとともに、他者の研究にも関心を持ち、自分が学界や社会に対して出来ることについても考えてみていただければと思います。



平成29年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開

「女性たちの明治維新」のポスターや図録に掲載した楊洲周延「踏舞會 上野櫻花観遊ノ圖」
(鹿児島大学附属図書館所蔵)

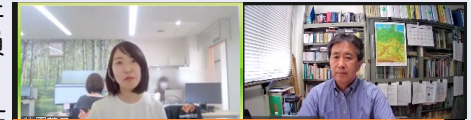
■法文学系における男女共同参画の取組について

松田 忠大 (法文学系長、男女共同参画担当責任者)

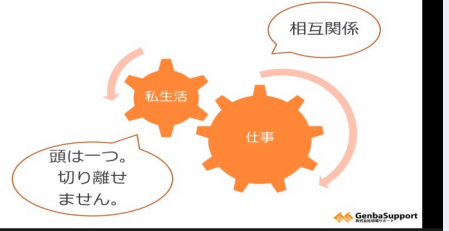


法文学系は学系長、副学部長、事務長、男女共同参画推進センター委員から構成される「男女共同参画推進委員会」を設置し、学部として男女共同参画社会の推進に向けた取り組みを行っています。法文学部の学生は男子45%に対して女子55%と、他学部に比べて女子学生の比率が高い点が特徴で、女性教員の比率（令和3年4月1日現在21.3%）向上はこの面からも喫緊の課題となっています。教員公募の際に「女性研究者支援をはじめとする男女共同参画に係る取組を積極的に推進しており、女性研究者の積極的な採用・登用を行っている」旨を明記して女性研究者の採用を進めることはもちろんですが、学部内の女性教員の教育・研究環境の改善を図るべく、教職員に対するアンケート調査を実施し、改善を図っています。また小さな子供のいる女性教員については、可能な限り委員会負担の軽減を図るほか、教職員および学生の意識の啓発に努めています。

今年度の学部の取り組みとしては、「働き甲斐のある会社」女性ランキング1位に輝いた企業に勤める女性社員（法文学部卒業生）による講演会「男女共同参画社会に向けた家庭・仕事でのチームプレー」を6月30日に開催した（写真）ほか、7月14日には育児休暇男女取得率100%の企業から女性の役職者を講師に招いて「男女共同参画社会における女性のキャリア形成」と題した講演会も開催しました。いずれも学生・教職員を対象とし、家庭や職場での男女の協同や望ましいワークライフバランス、男性の育児休暇取得などのテーマをともに考えることによって、男女共同参画社会に向けた学部内の意識の向上と啓発を図りたいと考えています。



ワークライフバランス



オンラインで開催された講演会の様子
左：講師 右：中島大輔副学部長

法文学部講演会には男女共同参画推進センター委員の参加も認められました。委員の感想を紹介します

今年6月に国会で改正育児・介護休業法が成立し、自分の学部で対応することを考えつつご講演を拝聴しました。丁寧でとても分かりやすく説明され、お勤めの先の育休産休制度や制度利用の風土を理解でき、今後の男女共同参画推進についてのヒントをいただけた気がします。チームを組み、見える化・効率化を高めることで仕事を引き継げる環境を整える事やジグソーパズルのようにメンバーそれぞれが出ていたりへっこんでいたりするそれをカバーし合う事など、ルールやシステムを変えつつ対応されておられ、育児取得率100%を継続されている理由が納得できました。また、講師は家庭内でもジョブチェンジされておられ、公私に渡っているんなことにチャレンジされている姿にとっても感動しました。チームを組んだり、代替教員の配置などがしづらい大学の特殊な環境ですが、学部内で産休や育休取得者が出たときに具体的にどうするかなど、今後検討していきたいと思いました。

■取組紹介

研究支援員制度

前期（6～9月）

制度利用研究者17人（うち男性5人）に、研究支援員19人を配置しました。ライフイベント期の研究者の生活と研究の両立に役立っています。

研究支援員である学生の学業との両立を図るため、研究支援員を複数配置する利用者が増えています。

後期（10～3月）募集中

★募集期間：7月19日～8月20日★

メンター制度

本学の研究者（医員を含む）や大学院生（研修医を含む）を対象とした相談体制です。

悩みは一人で抱え込まず、相談しましょう。

【相談申込】 mentor@kuas.kagoshima-u.ac.jp

保育支援制度

祝休日の大学業務に係る保育料や病児保育料等に係る補助制度です。

*詳細は、男女共同参画推進センターHPでご確認ください。

男女共同参画推進センター会議

男女共同参画推進センター委員は事務局関係者及び教員組織の各学系委員で構成されています。



令和3年度第1回目会議を、5月26日にオンラインで開催し、令和3年度事業計画及び会議開催に係る事前アンケートを元にした意見等について協議しました。事業計画は承認され、各学系委員から出された会議開催時の事務局

局定時内への変更、留学生への対応における環境整備、意識啓発セミナーや交流会の開催、業務支援への意見収集等のグッドプラクティスについて情報共有されたとともに、本学での保育支援の在り方について意見交換がなされました。

グッドプラクティスは、各学系での今後の取り組みへの参考になったとともに、保育支援や留学生への環境整備については、大学としての支援の在り方として継続検討していくこととしています。



■ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）／令和2年度選定

鹿児島大学Women in Science for Health (WiSH)

ダイバーシティ研究環境実現プロジェクト (WiSH PLUS)

令和3年度 活動計画等紹介

ロゴマーク刷新



プロジェクト略称であるWiSH PLUSは、個々の願いを大きな希望へと膨らませ、人々の健康や幸せに寄与するための持続的な研究環境の実現を意味している。

本学で歌い継がれている“北辰斜に”（七高第14回記念祭歌）から、目指す方向を星で表すとともに、本学大学憲章の「学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自立の進取の精神を尊重」並びに男女共同参画理念の「個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮」から、ひとつひとつの星を個々の尊重と活躍に見立てている。さらにダイバーシティ・SDGsをイメージする色を加えることにより、持続可能な研究環境の整備、ジェンダー平等に向けたプロジェクトであることを示している。

WiSH PLUS関係者会議

研究・国際担当理事と総務担当理事、WiSH ワーキンググループ、グローバルセンター、国際事業課、URAセンター、研究協力課、男女共同参画推進センター、人事課等担当者間の情報共有、意見交換の機会として定期開催。

Potential

女性・若手の潜在能力を引き出す

- 国際交流助成事業 : 新設、実施予定
- 若手教員海外派遣支援事業 : 女性枠新設、実施予定
- 研究力・国際力スキルアップ支援 : 実施中
- 学外アドバイザー制度 : 実施決定

Leadership

女性研究者のリーダーシップを培う

- 異分野融合研究プロジェクト創出研究助成事業 : 実施中
- 女性・若手大型種目チャレンジ支援事業 : 実施中
- 国際共同研究促進事業 : 新設、実施予定
- 「研究教授・研究准教授」制度 : 規定内容検討中

Unity

大学が一丸となり、ダイバーシティ研究環境づくりに取り組む

- 女性研究者の採用に係る公募の工夫 : 実施中
- トップセミナー : 実施決定、案内中
- WiSH PLUSキャラバン : 実施予定

Sustainability

持続可能なダイバーシティ研究環境を構築する

- 国際シンポジウム : 実施予定
- 基金等の活用 : 検討中

■ご案内

鹿児島大学令和3年度男女共同参画トップセミナー

開催日時：令和3年9月9日（木） 15:00-16:30

講師：東村 博子先生

名古屋大学副総長（男女共同参画・多様性担当）
生命農学研究科 教授

演題：「大学の活性化戦略としての女性活躍促進
～名古屋大学の取り組み事例も含んで～」

開催方法：オンライン ZOOM

申込方法

学内の方は各所属先総務担当係へ

学外の方は鹿児島大学男女共同参画推進センターHP
申込フォームからお申し込みください。

■学内連携：附属図書館との連携企画

【鹿児島大学男女共同参画展】

展示期間：6月23日～8月10日

男女共同参画の取組の可視化、意識醸成を目的に年2回開催しています。今回は、国・県の男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画関連図書や「わたしのあたりまえ、あなたのあたりまえ、ほんとにそうかな？」と問いかけたポスター等を、附属図書館1階エントランスに展示しています。



<今後の予定>

- 第4回鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議
令和3年8月5日 14:00-15:00 オンライン会議
- 鹿児島大学令和3年度男女共同参画トップセミナー
令和3年9月9日 15:00-16:30 オンライン開催
- 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 熊本
令和3年9月17日 13:00~15:50 オンライン開催
「ダイバーシティ推進に向けた大学からの発信
～戦略から実践へ～」

Information

- ・ライフイベント期の仕事と生活の両立のために、研究支援員制度を補完するものとして「教員業務短期支援員制度」を運用しています。研究支援員制度募集後のライフイベント（妊娠、介護、疾病等）に対応できます。
- ・後期共通教育科目「身の周りの男女共同参画」を開講。
科目責任者：原田いづみ（法文学部教授、副センター長）

